

近頃気になっていること

<1> 一円はいくら？

子どもの頃に「1ドルは360円」と教わった。

ラーメンが1杯50円の頃に、「360円も持ってアメリカへ行っても、たったの1ドルにしかない」と解釈し、アメリカと日本の様々な格差を感じたのは私だけではないだろうと思う。

1980年代の後半にアメリカを旅する機会を得た。アメリカの様々なお店で食事や買物をしながら、様々な物の価格を日米間で比較して見たが、この時の実感としては「1ドルは100円～120円位だと平等かな」であった。また、この時に感じたもうひとつのことは、円とドルの間の交換レートを「1ドル=XXX 円」と表現することへの違和感だった。円の国日本が「円の価値」を表現するのに、「1円は XXX ドル」と言わず、「1ドル XXX 円」とするのはおかしい。広く、多くの一般国民が理解しにくい。

時は今、1ドル=160円前後になり、円の価値が極端に低下したことで騒ぎになっている。

これが、もし「1円=0.00625 ドル」と表現されていたらどうなるだろう。「1円は 0.6 セントの価値しかない」ということがわかる。

「円の変動」を表現するのに、「1円はいくらか？」という表現に切り替えた方が一人一人の国民にとって解りやすいし、置かれている状況の認識がしやすいのではないかと思う昨今。

<2> 点と線と・・・

数学や国語で、「点」、「線」、「面」という言葉を教わったことがある。岩波国語辞典にはこう説明されていた。

- 点(てん)＝ある事柄で着目するひとつの箇所
- 線(せん)＝点の移動によって生ずる図形(点と点を結ぶもの)
- 面(めん)＝線の移動によって描かれる図形
- 帯(たい)＝帯のように連なる地域・区域

大きな低気圧が襲来すると、「線状降水帯」という言葉が飛び交うようになった。

実際に雨雲の画像を見ると、広いエリアにわたって巨大な雨雲が渦を巻きながら進んでいるのがよくわかる。よくよく画像を見ていると「線状」とは思えなく、どちらかという「面状」と言った方が良いように見える。

また、その面が移動していくので、どちらかという「帯状」のような気がする。

「帯状降水帯」ではおかしいし、まさしく「降水帯」だけで良い感じにも感じる。

夏日・冬日・熱帯夜などのように、気象上のできごとを単語で表現をしたい方が思いついた新造語だと思うが、「豪雨帯」「移動性豪雨帯」「滞留性豪雨帯」の方が、危機感もあり誰にでも解る表現のような気がするが・・・。

<3> スマホの方が大切

ベビーカーに子どもを乗せた若いおかあさん。子どもを対面に座らせて歩いて来た。子どもは時々何かに反応して声を出して母親の方を見る。母親はベビーカーを押して一定の速度で歩き続けながらスマホに夢中。

犬の散歩中のお姉様、曲がり角で一旦立ち止まった犬は、飼い主の反応を確かめるようにチラット視線を送る。

飼い主はスマホに夢中でそれに気がついていない。

子どもも飼い犬も、コミュニケーションをとりたくて視線を送っているのに、それに気がついていない。

こういった場面は、町中でも電車の中でも、お散歩中の公園でもしばしば見かける。

乳児が、言葉や社会を知るきっかけになる大事なコミュニケーションのきっかけを見落としている。

犬が、飼い主に喜ばれることで意思の疎通を確認しようとしているのに、飼い主はそれを見ていない。

コミュニケーションのきっかけを無視され阻害されると、乳児でも犬でも同じように、「愛されている」と感じる機会を失う。こうして育てられると、どこかに歪みが生じる日が来るかもしれない。

子育て中の母親にとって、子よりもスマホの方が大事なのだろうか。

<4> シングルマザーとは

近頃「シングルマザー」という言葉が至るところで使われるようになってきた。しかし、個人的な感想としては、あまり理解できる呼称ではない。

世の中に、母親が二人いる(ダブルマザー)や三人いる(トリプルマザー)人は、かなり特殊な環境にある人だろうと思う。

私には父と母がそれぞれ一人ずつ存在していた。これをそのまま横文字で表現すると、「シングル・ファーザー」と「シングルマザー」ということになる。横文字を直訳して頭に入ってくるイメージからすると、「シングルペアレント」と表現した方がわかりやすいような気がするが、「片親」ではなぜいけないのだろうか。

特殊な環境にある人について「呼称」をつけてグルーピングすることが目立って来た。これこそ差別や偏見につながるのか心配になる。しかもほとんどの呼称がカタカナ語で、意味が正しく伝わりにくくなっている。さらに、英語圏の外国から入ってきた外来語と、日本で独自に考えた新造語が混在して、何がなんだか分からない状態になりつつある。まさに「あいまいな国ニッポン」。

<5> ライドシェア

「ライドシェア」という言葉が頻繁に聞かれるようになったのは5~6年前ぐらいだっただろうか。

一般市民感覚では、「ライド」は「乗る」、「シェア」は「共有する」という意味が浸透している。

ある日、日経産業新聞の「新しいインフラの紹介」の欄に細かな説明が載っているのを見つけた。

「乗る」ことを「共有する」ということは、「タクシーの相乗り」を意味するものと解釈し、「タクシー相乗り解禁」になるのかなと密かに期待して読み始めてみたのだが……。何と、

一般の人が「タクシー営業」をできるようにしようと言うもので、一言で言えば「白タク解禁」ということだった。

終電が津田沼駅に着く頃、駅横の路地にタクシーが集ってきて、同じ方向に行く客を探して相乗りさせるという「煙突タクシー」に何度か世話になったことがある。一人でメーターで乗ると5000円かかるところを、見知らぬ客と4人で相乗りすると3000円ですむというもので、庶民の立場で見れば「合法化」すれば効果的な仕組みではないかと感じていた。

市民感覚として捉えられているニーズと、業界や行政が捕えている問題意識との乖離を示す一例のような気がする。

<6> 波浪警報に注意

鎌倉や江ノ島どころか京都・奈良などが大変な状況であることを報じるニュースが数多く流れてくる。

町に観光客があふれ、しかも外国からの旅行客が沢山訪れて、様々な問題を起こしているらしい。

町の観光案内から自治体の通達など、様々な情報の多言語化や規則の徹底をはかる説明媒体がそこかしこに登場。行政からの情報提供を、一過性の外国人観光客に向けて丁寧に手厚くやっているが、これまで市民向けにも丁寧にやられてはいない事柄が多い。

地元住民は、生活上の不便を感じながら、さらに「外国人観光客優先」の施策の犠牲になっているのでは？

そんな事を心配しつつテレビの天気予報を見ていたら、鎌倉・江ノ島・湘南海岸に「ハロー注意報」が出ていた。

以上